

日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation) の一員として、20ヶ国60の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える動きをしています。

～新年おめでとうございます～

昨年も支援者の皆様の募金や各種のチャリティー活動、世界食料デーへの取り組み、ボランティア参加などにより、飢餓と貧困に苦しむ人々と子どもたち、災害に遭われた人々を支えることができたことを感謝いたします。当機構は2014年もハンガーゼロ(飢餓撲滅)実現を目指し、皆さまとともに愛の輪を広げ、様々な困難から立ち上がるうとする人々に手を伸ばしていきます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

今年もご利用ください!!

- ★書き損じはがき
- ★本de リンク
- ★ハンガーゼロ・自販機

■年賀状(私製は除く)などで「書き損じ、印刷ミス」のものをお送りください。それを郵便局で切手と交換して、海外スタッフや支援者への郵送物発送に用いさせていただきます。また、記念切手などの未使用切手も大歓迎です。送付は大阪事務所まで。

【書き損じはがき、未使用切手 2013年集計】

書き損じはがき4,703枚 212,712円(切手)

未使用切手1,553枚 98,597円

■年末の大掃除で不要になった本やCD、DVDは愛知事務所にお送りください。換金して支援に用いることができます。

【本de リンク 2013年集計(11月まで)】

換金額136,413円(本:3,554冊、CD819枚、DVD25枚、ゲームソフト65本)

■ドリンク1本で10円が寄付できるハンガーゼロ自販機が全国で設置47台に広がりました。昨年から災害対応型の自販機も加わり新たに導入してくださる企業や学校、教会が増えました。



【ハンガーゼロ自販機 2013年集計】

募金合計866,659円(アフリカでの給食約28,888食分相当)

※設置についてのご相談は大阪事務所まで。

2月 ワンワールドFに出展(大阪) 大好評「ハンガーゼロ・カフェ」

2014年2月1・2日、西日本最大の国際協力交流イベント「ワン・ワールド・フェスティバル」が、大阪国際交流センター(大阪市天王寺区上本町)で開催されます。この交流会では、120以上の団体等がブース出展するほか、各種イベントなどで国際交流を体験できます。当機構は今回も会場入口付近の民族料理コーナーで「ハンガーゼロ・カフェ」を出展します。ぜひご来会ください。また当日ブース運営のボランティアを募集しています。申込みは大阪事務所まで。なお、大会実行委員会でもボランティアを募集中です。



3月 ハンガーゼロ・ファシリテーター・トレーニング

海外で活動をめざす方の特別な学習の機会です。ぜひご参加ください。

期 間: 2014年3月17日(月)～21日(金)

会 場: 東京基督教大学(TCU) 千葉県印西市内野3-301-5-1

費 用: 30,000円(滞在費とテキスト代5,000円を含む)

定 員: 12名 ※申し込み・お問い合わせ: 大阪事務所(吉本)

**ハンガーゼロ
サポーターを
大募集中!!**
現在...
3264口

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
**お電話でも申し込み
できます。各事務所
までおかけ下さい。**

- ☐ **フィリピン台風支援に協力します。**
緊急募金として _____ 円協力します。
- ☐ **ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。**
毎月()口 (1口1,000円)
- ☐ **チャイルド・サポーター(世界里親会)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。**
- ☐ **海外スタッフ・サポーターとして協力します。**
毎月()口 (1口1,000円)
- ☐ **JIFHサポーターとして協力します。**
毎月()口 (1口500円)
- ☐ **郵便自動引落し申込書を送って下さい。**
- ☐ **その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。**

フリガナ
氏名: _____ 男・女

〒 _____
フリガナ
住所: _____

.....
(電話)

▼申込日: _____ 年 月 日▼NL 号

FAX・072-920-2155

大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東 京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
東 北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ2階E
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651
愛 知 〒466-0064 名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター2F
TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
広 島 〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLC ブックス2F
TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037
沖 縄 〒901-0156 那覇市田原3-8-1 コリ香ハウス201号
TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さっています。

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



フィリピン台風緊急支援 サマール島ヘルナニ市の被害調査で(吉田が撮影)

今この時代に何を備えるか

日本国際飢餓対策機構 理事長 岩橋竜介

新年おめでとうございます。昨年のご支援を賜り心から感謝します。時代が様々な面で厳しくなる中で、世界の飢餓と貧困の現状を知り、それをなくすために多大な犠牲を払いつつも愛の御支援をして下さるからこそ、日本国際飢餓対策機構も活動を続けることができました。

2013年10月の国連食糧農業機関(FAO)の報告によりますと、世界の飢餓人口は約8億4,200万人で、前年より約2,600万人減少しました。しかし、依然8人に1人は慢性的な栄養不良と飢餓貧困に苦しんでいます。確かに、アジア諸国の経済発展は当該地域での飢餓人口を軽減させましたが、アフリカのサハラ以南と南アジアの地域では厳しい状況はほぼ変わりありません。一見、世界の流れは良い方向に向かっていているように見えます。しかし、楽観視できないのが現実ではないでしょうか。特に支援する側に目を向ける時に、それらの国々の政治、経済、社会情勢、道徳観などが不安定になると、情勢は一変します。誰かを支えようという思いがなくなるばかりか、人の心は冷えていき、自分のことしか考えられなくなり、愛の行動はなくなっていくでしょう。

先ごろ、我が国のことで興味深い記事がありました。昨年は2020年の東京五輪開催が決定したことが話題になりましたが、1964年の東京五輪より以前に実は1940年にも計画さ

れていたのです。しかし、当時の情勢の中で開催は返上されてしまいました。何が興味深いかというと、この五輪を挟んで、一つの流れがあったのです。1924年に関東大震災、その後治安維持法が制定され、1940年の東京五輪(開催返上)、そして太平洋戦争という流れです。そして現在に目を向けると、2011年に東日本大震災が起り、昨年は秘密保護法が制定されました。2020年には東京五輪が再び開催される予定です。その後にいったい何が来るのかと思わされるのです。

時代は流れていきます。良い方向に向かってほしいという願いを皆が持つてはいるものの実際はその逆に進んでいます。だから、その流れに従うしかない…。いいえ、たとえどのような流れであっても、一人ひとりが誰かを愛する心をもち、その思いを行動に移す時に、その誰かは生かされます。満たされます。愛が実を結んでいくはずですよ。

このような時代にあっても、2014年が皆様にとって素晴らしい年となることを心から願います。そして一人ひとりがこの時代の流れの中で備えをしていきましょう。自分の安全と安心のための備えだけではなく、他の誰かの命と生活を支えられるための「愛の備え」をしていきましょう。

「私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか。」(聖書)

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

いいね
大募集

Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト

●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構

●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ

今すぐ
募金が
できます!





なぜ？ 飢餓になるの

シリーズ① 「貧困の連鎖」

世界では、今も 8人に1人が毎晩空腹のまま眠らなければならず、国によっては3人に1人の子どもが栄養不良に陥っています。

この飢餓の原因はさまざまで、多くは重なり合っていますが、国連世界食糧計画（WFP）は6つの主な原因をあげています。それは、①貧困の連鎖 ②農業投資の少なさ ③気候と天候 ④戦争と土地を追われる人々 ⑤不安定な食料市場価格 ⑥食料廃棄です。

当機構が、これらの原因に対してどのように取り組み、飢餓・貧困に苦しむ人々の自立への努力に協力をさせていただいているかを、順次紙上でご報告します。

抜け出せない負の連鎖

貧困によって、生きていくのに必要な食物を手に入れることができないということは、十分な栄養をとれないだけではありません。収入を得るために働けるだけの身体を保つことができなくなることでもあります。少ない食料はまず

働き手である父親の口に入るので、母親は特に栄養不良に陥りやすく、その乳を飲む子どもも栄養不良や発育不全に陥ります。そして病気にかかりやすく、5歳になるまで生き延びることが困難になっています。又子どもの将来に



大きな影響を与え、飢餓・貧困から抜け出せなくなって、貧困が貧困を呼ぶという「貧困の連鎖」の状態が続くのです。

子どもの栄養改善を図る

当機構は、飢餓の原因となるこの「貧困の連鎖」に苦しむ人々の基本的な必要を満たすため、特に子どもたちの栄養改善のため、ケニア、ウガンダ、ジンバブエ、ザン

ビア、南スーダン、ニジェール、ポリビア、フィリピンで給食支援、食料支援を行っています。

また里親さんのご協力によって、世界7ヵ国で世界里親会として子どもたちへの給食と共に教育支援、衛生指導を行っています。そして貧困の中にある人々がただ支援に頼るのではなく、それぞれに与えられている可能性を信じ、自分達の力で貧困から抜け出すことができるように、職業訓練など自立への取り組みに協力をしています。

国連世界人権宣言にある「食料への権利」は全ての人が持っている、いのちにかかわる権利です。一方、世界で十分に生産されている食料が、工業先進国や一部の富裕層のために消費され、飢餓に苦しむ人を生んでいるという現実があります。飢餓・貧困に苦しむ人々がこの権利を取り戻せるよう私たちにできることを考え、愛の協力を続けることで、この負の連鎖を断ち切っていきましょう！



ルワンダ駐在
東アフリカ担当
河合朝子レポート



東アフリカ担当として昨年9月にルワンダ共和国に赴任した河合朝子スタッフが、当機構の世界里親会が支援しているピース国際学校のジャン・クロード・ンサビマナ先生にインタビューしました。経済的な理由で近隣の学校に通えない子どもたちに教育の機会を提供するために作られたこの学校は、ニャンザとキガリに校舎があり、キガリ校では幼稚園、小学校1～5年生合計81名が学んでいます。生徒の8割はコンゴの内戦から逃れてきた避難民です。ここで教鞭を取る先生たち自身も難民としての生き立ちを持っていますが、そのおひとりでキガリ校校長のジャン・クロード・ンサビマナ先生にお話を伺いました。

私も難民でしたが…

私の両親はツチ族でルワンダからブルンジに逃れ、私は難民キャンプで生まれました。父は私が2歳の時にルワンダ人を差別する村人に殺され、母は幼稚園で働いていましたが、7歳の時に亡くなりました。孤児となった私は大家族の叔母に引き取られました。国連から食料として豆、米、トウモロコシの粉、塩、油などが月に2回配給されていましたが、家族が十分食べていけるほどではなく貧しい上、学校でも差別があり、小学校の卒業試験ではルワンダ人はブルンジ人より20%以上良い成績をとらなければパスできませんでした。

1994年にルワンダで戦争が終わり、叔母に連れられてルワンダの首都、キガリにやってきました。キガリに来て2年してから、従兄弟が学費を支援してくれたので私立の高校に入りました。ルワンダの高校は6年ですが、3年目

に支援がなくなったので勉強が続けられなくなりました。そんな時にデニス牧師に再会しました。彼とは、ブルンジにいた頃に近所づきあいがあり、再会当時はキガリで戦争孤児となってトラウマを負った子どもたちのために美術を通して教育活動をされていました。私の困窮を知った彼は、残りの4年間の学費を援助してくれました。私が高校を卒業した2002年にデニス牧師がピース国際学校を始められたので、教師として彼の学校で働くことになりました。

新しい自分を求めて！

この学校で働いて11年目になります。自分と同じような背景を持つ子どもたちやその家族と働くことに喜びを感じ、このような人たちと一緒に居ないといけないという思いがあります。以前は難民としての辛く貧しい暮らしを思い出してとても暗い気持ちでいました。でも、教師として子どもたちと関わることで、過去の苦労を忘れて自分を新しくしていこうという気持ちになれたと思います。

私は子どもの頃は何になりたいという夢はなく、ただ強い人になりたいと思っていました。精神が強くて、決断力のある人になりた

RWANDA
PEACE
INTERNATIONAL
SCHOOL



ジャン先生が校長を務めるキガリ校の子ども達

い、一生懸命働いて、新しい自分になりたいと思っていました。今年の9月から、多くの人の助けを得て大学に入学することができました。夜間コースで会計の勉強をしています。目標は大学を良い成績で卒業すること。そしてできればこの学校で続けて働きたいです。

今まで関わってきた子どもたちには、いい生活ができるようになってほしいです。私が今、新しいことにチャレンジしているように、彼らも自分の能力を磨いて欲しいですし、また必要のある人々を助ける人になって欲しいです。大きくなってここを離れても、この学校が掲げる平和と、お互いの良い関係づくりを忘れないで欲しいです。

ジャン先生を支えつづけたデニス牧師(ピース国際学校創立者)



●子どもたちの成長を助ける「チャイルド・サポーター」を募集しています。大阪事務所・世界里親会まで

●アフリカの飢餓問題を解決するための「ハンガーゼロ・サポーター」を募集しています。毎月1,000円(1口)



フィリピン台風緊急支援

フィリピン緊急支援のために現地に派遣したジェニファー・ヒルと稲本善宣による、JIFHの現地パートナー国際飢餓対策機構フィリピンの活動報告です。

地域に根差したFHフィリピンの活動

ジェニファー報告

JIFHの現地パートナーである国際飢餓対策機構フィリピン（以下FHフィリピン）は、台風通過直後の現地調査の結果サマル島西部のバセイの被害が最も甚大であること、又他にどのNGOの支援も入っていないことを確認し、バセイの支援を決定。さらに現地のパートナー団体の協力のもとに地域を視察、バセイの市長からマラブットの被害について知らされ、バセイとマラブットでの支



FHフィリピンがサマル島バセイで行っている子どもの心のケアプログラム

援活動を決定しました。まずウォーター・ミッション・インターナショナルと協力し、バセイで水の浄水装置を取り付けることができました。浄水装置は1分間に38リットルろ過でき、1時間に150～200人分の水を供給できます。

また建築家と技術者で構成されているNGOのエンジニアリング・ミニストリー・インターナショナルと組んで、現地にある材料を使って被災者の家を建てる方法を検討しています。また国連のWFPに協力してバセイとマラブットで20万トンの米を支給しました。加えて日本からの水フィルターとパンの缶詰を600家族にお届けしました。

食料や清潔な水に加えて、4,000家庭に衛生キットや物資（懐中電灯、蚊帳、敷きマット、毛布、

スプーン、フォーク）も配布されました。

子どものケアプログラムも

FHフィリピンは今後、マラブットで9ヵ所、バセイで5ヵ所の計14のバラングイ（地方行政区）を中心に支援をする予定です。今後は医師と看護師の医療チームによる奉仕を計画しています。この医療チームはまた必要な薬品や救急医療品を持っていく予定です。また、瓦礫などを取り除いて作ったテントなどで「子どもの広場」を開始します。この特別な場所では、子どもたちがゲームや歌、絵などのプログラムを通して、災害のトラウマを克服できるように支援。（12月現在、すでに訓練を受けたボランティア38人が計170人の子どものケアをしています。）

復興支援にあたって重要なことは、人々が希望を新たにできるように地域のリーダーや教会と協力しながら長期にわたって協力を続けることです。

レイテ島タクロパンの被害調査でパンの缶詰をお渡しする稲本



サマル島のサンタリタで、届けた水フィルターの使い方を示す酒井



パン缶と水フィルターを各地で配布



バンタヤン島
レイテ島
サマル島
他

昨年の12月中旬に、日本から空輸したパンの缶詰（約9千食）と水フィルター約300家族分をバンタヤン島とレイテ島のタクロパン、タナウアン、サマル島のバセイ、マラブット、サンタリタ、ヘルナニに吉田と酒井が入り配布しました。このプログラムはこれまでの被害調査に基づくとともに、現地パートナーのFHフィリピン、フィリピン福音自由教会、フィリピン福音同盟他の救援プログラムとも連携して実施するものです。水フィルターは被災者から「政府から生活用水として水が支給されたが、飲むことができなかった。でもこの水フィルターのおかげで飲めるようになったので助かる」と好評で、パンの缶詰も特に子どもたちから「パンが柔らかくておいしい」と喜ばれています。

稲本報告

私は吉田と現地ハンス・オブ・ラブ・フィリピンの酒井と共に11月14日から2週間にわたってレイテ島、バンタヤン島など6ヵ所の調査に入りました。最初に訪問した被災地はレイテ島のオルモク市。市内に入ると家や商業施設が壊滅的な被害を受けている姿に遭遇。幹の太い街路樹も根こそぎなぎ倒され、



木造の民家は吹き飛ばされていたことから、この台風の勢力がどれほど恐ろしいものであったのかを知りました。タクロパン市の海岸沿いの地域では、海岸から1 km離れた家の壁に地上から2m位の高さまで、気象津波が

来た跡をくっきりと残していました。

かつての街を取り戻したい！

被災地では、家を失くし親しい人たちとはぐれ、仕事を失われ、本当に辛い毎日を送っておられる方々に沢山会いました。しかし、それらの辛さに押しつぶされることなく、皆暖かく迎えて下さいました。被害調査を兼ねた最初の訪問のために私たちが提供できた救援物資は限られたものでしたが、被災者の皆さんから「私たちは沢山の国の方々から色々な形で励ましを受けている。だから私たちもそ一生懸命頑張って、かつての街の姿を取り戻していきたい！」という声を行く先々で聞きました。今回の調査では、被災地では、水や食料とともに、住宅の補修のニーズが高いことがわかりました。こうした声に少しでも応えるためにJIFHではボランティアを派遣するための準備をしています。



上空から撮影したサマル島の台風直後の様子



ハンスオブラブとの協働

JIFHの緊急支援活動は、現地のパートナー団体である、ハンス・オブ・ラブ・フィリピン（JIFHから酒井保駐在員を派遣）の現地ネットワークにより進められています。ハンス・オブ・ラブ・フィリピンは、台風直後に協力関係にあるフィリピン福音自由教会の代表であるプリスコ牧師から、教会ネットワークを活用して緊急支援を行うとの情報を受けて、JIFHとともにこの支援活動に協力することを決めました。そのため、酒井が日本から派遣されてきた吉田、稲本と合流していち早く被災地での支援活動をスタートすることができました。

ヘルナニでの配布

バンタヤン島で緊急支援物資を配布する吉田

2014.1
No.282
5

復興支援ボランティア募集予定！詳しくはウェブで

希望を胸に懸命に生きる母と子

ほんとうの幸せって？

カンボジアワーキャンプ
体験記 吉田結実香

花植えの手伝いをする吉田さん（右から2人目）



カンボジアに行っ
て本当に良かった
です
吉田結実香

私は専門学校最後の夏休みの10日間、JIFH主催のカンボジアのワークキャンプに参加しました。最初は参加するか迷いました。それは「生きていくにはお金が必要」とお金のことばかり考えていたからです。

クリスチ안의家庭で育ちましたが、毎日の生活は神様のことをなるべく考えないようにしていました。そしていつの間にか笑顔が消え、暗い顔つきになっていたように思います。そんな時にこの話があったので、これは神様の導きかもしれないと思いました。もともと世界を見たいという気持ちもありましたし、カンボジアの人たちに何かできることをしたいという思いもあり、行くことを決めました。

大切なもの

カンボジアでは、すべてが勉強と感動の毎日でした。中でも大きく心を動かす出会いがあったの

は、JIFHが支援する里子の訪問の時でした。ある男の子は小さい頃にお父さんをマラリアで亡くし、お母さんと二人で生活をしていました。彼の将来の夢は医者になることで、まじめに一生懸命勉強に励んでいました。彼の夢を応援するために、お母さんはタイに行って家具磨きをして働いているそうです。報酬は日本円で1日わずか400円ということでした。聞いているうちにそれまで我慢していた涙が一挙にこぼれてきました。お金はないかもしれないけど、希望を持って支え合って生きている親子が目の前にいる。そんな二人とこの私の姿があまりにも対照的で、自分の姿が情けないと思いました。

もう一つの体験は、かつてポルポト政権時代に多くの農民が虐殺されたという場所に行かせてもらったことです。ここでたくさんの方の命が失われたのだと思うと、本当に悲しくなりました。人

を殺したり戦争を起こしたり、人間の中にある罪の恐ろしさを深く感じました。そして、私の内にも同じ罪があると思いました。

本当の幸せ

最終日にはカンボジアのスタッフの人たちが、日本のメンバーを囲んで手を添えて祈ってくれました。今までの私の生活と、10日間見てきたカンボジアの人たちの生き方と笑顔、日本にいる大切な家族や友人、それらがぐちゃぐちゃに頭の中を駆け巡って、涙と震えが止まりませんでした。初めて頭ではなく心から悔い改めました。自分中心の世界は楽で自由です。だから幸せと思ってしまいます。しかし心の奥底にある重くて暗い何かは、自分の力ではどうすることもできませんでした。幸せそうにみえても本当はしんどかったです。それがなくなったのが分



村の子どもたちとの交流プログラムも楽しい思い出に

かりました。

昨年9月で私は20歳になりました。名前は結実香。その名の通り、たくさんの良い実を結べる人をもう一度目指して頑張ろうと思います。カンボジアに行っただけで本当の幸せを知ること、日本を知ること、たくさんの人に知ってほしいです。お金ではなく、笑顔と愛で溢れた本当の幸せを。

大阪女学院の中学生たちが、ボリビア・リオカイネ地区に住むイスマエル君（飢餓対策ニュース275号で紹介）の里親になってくださっています。その学校の園岡めぐみ先生がボリビア・ワークキャンプに参加されたことから、愛の支援の輪が広がって一つの実を結びました。



相手の立場に立って共感する気持ちを大切に

昨年8月16日から28日、日本飢餓対策機構のボリビア・ワークキャンプに参加しました。当校の中学校3年生が支援している3人の里子が住んでいる所です。

首都のラパスでは標高4,200メートルで気温が零度。そこから里子達が住むポトシ州トロトロ町のリオカイネ地区まで車で約5時間。車窓から見える景色は見渡す限り、からからに乾燥した高原で、いったいこんなところに人が住んでいるのだろうかと思いました。

今回の訪問では、私たちが支援するアルバロ君とミリアムちゃん

には会うことができましたが、もう一人の里子であるイスマエル君には、彼の体調不良の為に会う事ができませんでした。FHの小西さんのお話ではイスマエル君の家庭が経済的に一番厳しいと聞いておりましたので、訪問できなかった事は残念でした。私たちが帰国後に、小西さんがイスマエル君を訪ねて、私たちのプレゼントを届けてくださったそうです。

家族のためにクラスでお祈り

そのイスマエル君の家には屋根がなく、大雨が降るたびに家の

昨年11月23日、とうとうイスマエル君の家にトタン屋根がつけました！家と言っても4m×4mにも満たない一部屋だけの小さな空間で、今はそこにイスマエル君、そして経費の全額は、大阪女学院中学姉のミゲリナちゃん、従弟のペドロ君、おの生徒さんたちがして下さった屋根募金ばあちゃんの4人が暮らしています。

家族から感謝の伝言

ボリビア駐在 小西小百合



工事の当日は、リオカイネセンターにあるキリスト教会の皆さん、イスマエル君一家、私たちFHスタッフも含めて皆で工事を実施し、屋根と共に窓も取り付けることができました！その後全員で神様に感謝の賛美と礼拝の時を持ちました。最後に記念写真を撮りましたが、その時のご一家の嬉しそうな顔が忘れられません！“支援者の皆さんにぜひこの感謝の気持ちを伝え下さい！”との伝言を頂き

ました。現在イスマエル君一家は雨季の大雨の中でも安心して眠りにつくことができます。

そして経費の全額は、大阪女学院中学姉のミゲリナちゃん、従弟のペドロ君、おの生徒さんたちがして下さった屋根募金で満たされたのです！先生方は“自分が持っているもののうちから、それぞれが犠牲を払って捧げて欲しい”と語られたとお聞きしました。

一人一人が地球の反対側の国ボリビアの人々のことを思い、その人たちが真に必要な支援をして下さったことを心から感謝します。また“祈りと共に、具体的に行動を起こす”ことの大切さを学びました。これからもこのことを心に留め、活動を続けていきたいと思っています。

中がびしょ濡れになると聞きました。学年で何かできないだろうかと考え、毎日のクラス礼拝で「イスマエル君の家にトタン屋根が与えられますように」とお祈りをしてきました。

私たちにできることは小さな事かもしれませんが、中学3年生、一人一人が少しずつの努力をすれば大きな力になります。その力を私は信じたいと思いました。小さくても、一人一人の支援がリオカイネ地区の子ども達の生活を少しでも潤すことに役立っていることを忘れずに、相手の立場に立って共感する気持ちを大切にして支援を続けたいと思います。（園岡めぐみ）

イスマエル君のお家に屋根がないと聞いたときはとても驚きました。ですが、今回トタン屋根がイスマエル君の家についたと聞き嬉しく思いました。イスマエル君の家族が安心して暮らせるようになり、里親の私も現地のスタッフの方々に感謝しています。イスマエル君に更に幸せが訪れるようこれからも支援を続けて行きたいと思います。

（大阪女学院中学校3年生・神之門千通）